

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名：富山市立山田保育所

第三者評価機関名：富山県社会福祉協議会

評価確定年月日：平成 29 年 2 月 20 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

1. 地域と共に育てる『やまだっ子』理念の浸透

保育理念、「私達は、保護者や地域と共に、子どものすこやかな育ちを支えます。」とあるように、保育所を温かく支えてくれる地域住民、力強く支えてくれる保護者会。そして、この地域を、自然を、人を大好きになってもらいたいと願う職員の皆さん。地域・保護者・職員が一体となって保育活動に取り組んでいる様子がたくさんの行事から伺える。地域の温かい見守りのもと、四季の変化や特徴を五感で感じながら、やまだっ子のびのびと育つよう保育がたくさんの人の手によって実践されている。

2. 恵まれた人的環境・地域環境・自然環境

保育所が地域の中心地に位置しており、周りに小中学校、児童館、老人施設・駐在所があり地域が、子どもたちを「宝」として育てている。また、所長はじめ職員も地域の「宝」としてやさしく、時にはきびしく母親のように関わっている。小・中学校と合同で運動会をはじめとした、小・中学校との交流活動も多い。小学校の教諭が保育所訪問し、保育内容を体験した子どもたちと交流も実施している。また、老人会との交流、敬老会参加、福祉施設訪問、生涯学習フェスティバル参加など多方面にわたって交流している。その根底には、地域の愛情があり、子どもたちとの交流を楽しんでいる。

保育所は、山や野原、川、自然豊かな場所に位置し、近くには、温泉、スキー場などがある。いろいろな遊びや体験を通し、心身ともに豊かな子どもに育つ環境にある。

◇ 改善を求められる点

1. 関係者との協働による事業計画の作成

地域行事への参加が多いことなどから、行事を中心とした年度計画は作成されていたが、富山市が作成している「富山市子ども・子育て支援事業計画 H27～31 年度」中長期計画に基づいて、当事業所が事業の意義を明確にし、職員及び保護者会、さらに地域からもニーズを集め具体的な目標などを盛り込んだ実現可能な内容の事業計画を策定し、サービスの実施から評価及び検証、改善内容を踏まえて、新たな年度計画へと繋げていくことが望まれる。また、事業計画は、保育所を支援してくださる関係者、職員及び保護者へ広く周知されることが望まれる。

2. 広く意見を集める工夫とそれらの情報を共有するしくみ作り

小規模で家庭的な保育を実践していることから、子育ての相談は気軽に行えるが、保育サービスの内容等については、馴染みの関係ゆえに話しづらいことが見受けられる。重要事項説明書には、「要望・苦情に関する相談窓口」は所内と案内されている。地域内外を含め、第三者が受付できる体制を構築し、利用者や地域から広く、多くご意見を募り保育所運営に反映していくことに期待したい。保育をめぐる環境は大きく変わり、求められる役割も多岐にわたる。こうした社会の変容を踏まえ、様々な保育活動の検討内容や寄せられる情報を開示・共有し、共に考えていくことで運営に対する理解が更に深まるものと思われる。

3. 保育計画についての意向やニーズを掘り起こす

少人数で地域性が濃く、保護者同士も顔見知りが多いという特色を生かし、保育計画に関する意向やニーズが掘り起こしやすいと考えられる。温かく、協力的な地域や保護者だからこそ計画に対する意向やニーズを統計にとり、保育の計画を作成することは、山田で1つの保育所が地域とともにあるという特徴がより鮮明になると思える。保護者や地域に集計したものを示し、保育の計画に取り入れていることを示すことで、山田保育所の大きな特色になるはずである。現状に満足せず、より深く地域に密接した保育所をめざしていただきたい。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

- ・保育理念や保育内容、園・クラスのお便り等、丁寧にわかりやすくプリント作成し、繰り返し保護者及び職員に伝えてきたことで、利用者アンケートでは「説明をうけた。わかりやすい。」という回答が回収率の100%を占めていた。また、地域に対しても『すくすく便り（地域向け情報誌）』を年に4回、子どもの育ちへの願いや地域とのかかわりをイメージ図にした特別号も臨時発行し、山田地域全戸に配布し保育情報を積極的に発信している。
- ・保育の質を高める取り組みとして、事業所評価及び自己評価に常勤職員全員で複数回取り組んできた。保育事業所の基準内容を振り返り、その上で、嘱託や非常勤職員も含めて年齢別保育内容の自己評価を実施し、集計した結果をもとに気づきや思いを書き出し皆で検討する中で、他者の考えを学び共通理解を深める機会となっている。今後、自己評価業務が負担にならないよう頻度や内容について工夫していくことが望まれる。
- ・小規模で家庭的な保育所であること。所長及び副所長はその利点を活かした、保護者と地域住民と職員、そして職員間のチームワークづくりに力を注いでいる。所長及び副所長ら自ら保育所の玄関先に立ち、保護者や園児のみならず、小・中学生や地域の住民に気持ち良い挨拶を実践している。職員には、些細なことでも相談できるよう、細やかな声掛けを惜しまない。職員のヒアリングから「温かい気持ちで仕事ができる。楽しく働ける。」といった声が寄せられている。
- ・園児に様々な体験を通して興味や関心を広げて欲しいという思いから、限られた予算の中で、社会資源（カターレ富山）サッカー教室（無料）の活用や保護者会との協議で音楽教室（有料）を開催し、園児と一緒に職員も学びの機会が得られるよう工夫している。

2 地域の住民や関係機関との連携

- ・保育所、小・中学校の生徒間交流に加え、職員や教諭も保健委員会を合同開催したり小学校の教諭が保育所を訪問、成長の過程を知り、生活環境や現状況を共有理解していくことで地域の子どもの育ちを皆で支え合う関係づくりが構築されている。
- ・地域の多世代、様々な住民がかかわる行事への参加が多い。これまでも行われてきた伝統的な交流をどの立場の人も関係機関の人も継承し、皆で保育所をはじめとする地域資源を大切にしていこうとする気持ちが感じられる。

3 子どもの発達援助

- ・豊かな自然に囲まれ、のびのびとした保育が行われている。広い芝生の園庭には、春には八重の啓翁櫻が見事に咲く。その下で花見をかねておやつや食事を楽しむこともある。山田保育所の自然を生かした保育は、子どもたちが心身ともに健やかに育つ源になっている。
- ・所長はじめ職員は、子どもに対してやさしく、時には、厳しく接し、保育所の母的存在を目指している。家庭的な保育所で、保護者からは、「笑いの絶えない保育所」との評価もある。職員が子どもの立場に立って、家庭的な保育に取り組んでいる。
- ・サッカー教室、音楽教室が、年間を通し開催されており、子どもたちが身体全体を思い切り動かし、表現する機会があり年に1度、成果を発表する機会を設けている。
- ・保育所全体で月2回の安全点検を行い、安全や健康に留意している。乳児クラスでは、部屋の机や棚、危険のないように保育士手作りの安全措置が随所に見られる。
- ・地域活動に保育所が積極的に参加しており、地域も協力するシステムが伝統的に守られている。

4 子育て支援

- ・年間30回の子育てサークルを実施している。親子クッキング、おもちゃ作り、指導員によるふれあい遊び、子育て相談など、内容も充実している。退職した保育士が指導員として毎回サークルに参加し、とても心強い存在である。
- ・空き部屋を活用した、一時保育専用部屋も設けることが可能であり、時には、スキーに訪れるお客様の一時保育を受けることもある。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の受審に向け、全職員が自己評価や気づきから生まれた様々な課題の見直しに取り組みました。その過程を通して、共通理解を図るための実践を繰り返し、たくさんの話し合いを重ねました。そのことは、職員の資質とコミュニケーション力の向上につながり、私達の財産になったことを心から感謝いたします。また、地域・保護者・職員が一体となって《やまだっ子》の育ちを支えている点を高く評価していただきありがとうございます。改めて地域にひとつの保育所としての重要な役割を実感することができました。

課題のひとつとしては、山田保育所は小規模で保護者との関係性も築きやすい反面、保護者が本当の気持ちを保育所に伝えにくいという面も見えました。そのような保護者の思いを、どのような方法で受け止め、保育に生かしていくかを検討し、保護者とのより良い関係づくりに努めていきたいと思えます。このように、今後も課題の改善と実現に向けて努力を重ねていくことが、山田保育所の保育の向上につながると私達は信じています。

そしてこれからも、豊かな自然環境や人的環境を生かし、家庭・保育所・小学校・中学校へとつながる子ども達の連続した豊かな育ちを保障できるよう、地域のネットワークを活用しながら、より深く地域に愛される保育所を目指していきたいと思えます。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1)基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	A
(2)中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3)組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	A
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4)守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5)情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6)安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7)人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8)経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	B
(9)管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	A

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1)地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	A
(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	A
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	A
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1)入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2)多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	B
(3)地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	A
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	A